南の光明
The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標
平和は聖なるもの 神のみ旨
絶えざる和解の旅

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人 W.F.バーント司教 1部40円
http://www.naha.catholic.jp/

(1) 2026年8月1日（毎月1日発行） カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第813号（8月号）

那覇教区目標考



Sr. ルチア 中村 睦子

聖堂に入って先ず目に止まるのは、那覇教区目標「平和は聖なるもの 神のみ旨 絶えざる和解の旅」という標語です。掲示されているのですから、この１年間心に留めて生きてほしいとの願いが込められています。であれば教区民のひとりとしてこの目標を思いめぐらし、共に考え分ち合う良い機会になるかなと思い、私なりの考えをまとめてみました。

先ず「平和は聖なるもの」という文言から受ける印象は、平和は神に属するもの、神から来るものという感じです。そして思い浮ぶのは、復活したイエズスが弟子たちに現われ開口一番口にした「あなたたちに平和があるように！」というみ言葉です。弟子たちは師であるイエズスが殺されたのですから、恐怖のあまり心は混乱していました。ですから当然彼らの不安を取り除く為のお言葉だったと思われますが、この大事な場面でたたみかけるように三度も「あなたがたに平和があるように!」とくり返されたのには、単になぐさめる事以上の思いや意図があったのではないかと思えてなりません。思い当たるのは主の祈りです。以前に弟子たちが、「私たちにも祈りを教えて下さい」と願った時イエズスは「み国が来ますように!」と祈りなさいと教えました。当時の世相は混乱と不安の真唯中にあり、人々の平和な暮らしへの渇きはピークに達していました。ですからイエズスが同じ渇く思いで先ず「み国が来ますように!」と祈り教えたのは当然でした。でもそれは、み国が天から降りて来るようにという意味ではもちろんありません。ヒントはエデンの園にあります。「主なる神は人をエデンの園に住まわせ、人がそこを耕し、守るようにされた。」（創世記 2:15）と記されています。つまり神のみ旨は、そこで人々が力を合わせてみ国を築き上げ、共に永遠の命の喜びを享受することにありました、イエズスの想い描いたみ国も、まさにその平和の国だったのではないでしょうか。

人類は神から与えられた知力、能力によって、驚くべき進歩、発展を遂げました。まるで神のようになった気分、錯覚さえ感じてしまう程です。それなのに未だに平和を手にしていません。

そのいきさつについて創世記は詳細に記し伝えています。結論から言うと人祖は神の命じた事を軽んじ、自分の要求を満たす為の行動に出たのでした。その結果は悲惨なもので、神のみ旨を犯し、平和を汚した人祖は、もはやエデンの園に留ることが許されなかったのです。こうして神との間に亀裂を作ってしまい心に平和を失った事が人の世の苦難の始まりだったのではないでしょうか。しかし神は時に罰を与えることがあっても愛を失うことはありません。

使徒パウロは言っています。「罪が増したところには、恵みは一層満ち溢れた」と。結局神は人類を見捨てることなく、救いの手をさしのべたのでした、これが御子イエズスを世に送るという救いのみ業です。そしてイエズスはその救いの業を完璧に果たし、神と人との和解を成し遂げられました。こうして信じる者に御父のもとに帰る道が開かれたのですが人類の救いの完成は主の再臨まで待たねばならず、その時が来るまで人類はみ国を求めて歩み続けなければなりません。

しかし、近年は世界が狂気じみている観さえあります。平和を叫びながら武器を作って売るとか、抑止力と言ってミサイルを見せびらかすとか、言葉で威嚇するとか、お互いに追い詰められて軍備強化に励んでいます。こんな危険極まりない状況を打開するには和解の道筋を探し求めるしかありません。しかし荒れ果て

（２頁へ続く）

た土地が何も良いものを生み出せないように、平和を失った心には和解の道筋は見えてきません。ところが見えている人たちが居ます。それはイエズスに従った神の民です。この民は弱く小さいものなので声を上げても打ち消され、行動を起こしても押しつぶされた歴史を経験しています。しかし、この危機にあたって、神はこの民を立ち上がらせました。シノドスです。この民は眠りから覚めたように動き出しました。もう小さな群れでは立ち打ちできません。一致団結して束になってこそ最良の道だと悟ったのです。そして聖霊は、進むべき道程を明示しました、シノダリティー(共に歩む)路線です、第二バチカン公会議以後、さざ波だった動きは徐々に波紋を広げてきました。そのうねりを高めて行く事こそ私たちの使命ではないでしょうか、もう言いのがれはできません。

この大波のうねりが世界を飲み込んでしまうまで私たちは忍耐し、苦難を引き受けて行く覚悟が必要です。なぜなら、その道筋は平担でなく延々と続く「絶えざる和解の旅」となるからです。しかし、それは一人旅ではありません。聖霊がしっかりと同伴しています。先ず神との和解(回心)、次いで人との和解(ゆるし)、そして自分との和解(解放)が果たされてはじめて、そこに人々との豊かな交わりが生まれます。こうして徐々にシノダリティーの教会が実現して行くのではないでしょうか。

教区NEWS教会

「平和の種をまき続けよう」

海星小学校の33期生の6年生が沖縄本島での平和学習をスタートしてから26回目の6月を迎えました。本校では5月から6月にかけての1か月間を平和月間と位置づけ、学年に応じた取り組みを通して平和について考えていきます。

小学生になってまだ間もない1年生は「かわいそうなぞう」という絵本を通して、昔「戦争」というものがあったことを知り、2年生は戦争体験者(5年ほど前からは語り部の方)から当時の石垣島の子どもたちの暮らしぶりを聞き、3年生・4年生は資料館見学やフィールドワークを通して「戦争マラリア」について学びます。5年生になると島を離れ西表島の南風見田の浜やウタラ炭鉱跡を訪れ、沖縄本島から遠く離れた戦闘地域ではない場所でも戦争関連死者がいる事実を知り、そして6年生は平和学習の集大成として2泊3日の「沖縄本島平和学習の旅」に出かけます。

平和学習の旅1日目は「沖縄戦の傷跡をたずねて」をテーマに南部戦跡を巡り、2日目は安里教会をスタート地として「沖縄の基地の現状を見て、沖縄の未来を考える」コースをたどります。本島中北部の米軍基地や基地があるが故の事件事故についてガイドの先生から丁寧な説明を受けます。3日目は「琉球の歴史と文化・そして今」のテーマのもと美ら海水族館や首里城、県立博物館などを見学し帰路につきます。1日目、2日目の夜にはその日見聞したことを分かち合い、学びを深めます。12才の彼らが平和学習の旅で学んだこと・感じたこと・考えたことを少しだけご紹介いたします。

○「戦争はダメだ」「争うことはダメだ」これが今の僕の気持ちです。過去の戦争がなぜ起きてしまったのか、なぜ今、戦争が起きてしまっているのかと考えても、僕には明確な答えがなかなか出せないけれど、平和学習で学んだ「興味関心をもって考え続ける」ことができれば、いつか世界が平和になると思います。僕は昔、レイ司教様が行動したこと、激しい戦場だった場所にまず病院をつくって、戦争後も苦しむ人を助けたこと、そしてその役目を終えたら次は保育園を建て、石垣島にも小学校をつくり、これから育っていく子どもたちが間違った道に進まないようにという願いを込めていたのだということが心に刺さりました。僕は今、その海星小学校に通っているので、レイ司教様の気持ちを引き継いで正しい道を歩んでいきたいです。(川﨑隆仁)

○私が平和学習で学んだことは2つあります。1つ目は当時の人の気持ちになって考えることです。これまでは「かわいそう」「ひどい!」など、自分のことではないという感覚で考えていたことが多くて、当事者の気持ちになって考えることができていなかったのです。だから、これから平和について学ぶときには当事者の気持ちを意識して勉強したいです。2つ目に学んだことは、相手の人の考えもきちんと聞き、しっかりと受け止めることです。平和学習2日目の夜に、沖縄の米軍基地について話し合いました。私は基地はない方が良いと思います。なぜな

(3頁へ続く)

ら周りにも大きな影響があると聞いたからです。「私は絶対に反対！」と思っていたけれど、話し合いで自分の考えと違う意見が出た時に相手の意見をよく聞いてみたら「そういう利点もあるのかも」と気づきました。だから、これからは相手の意見にきちんと耳を傾けてしっかりと考えたいと思います。これからも平和のことをたくさん学びたいです。（石垣釉奈瀬）

◯私が海星小学校の平和学習を通して学んだこと、感じたことは「平和とは何だろう？」ということです。私たちが感じる平和はクーラーがある部屋で友達や家族とお菓子を食べたりすることです。しかし、それは「身の回りだけの平和」にすぎないと思いました。今、私たちが楽しんでいるときや勉強をしている時でも、世界の反対側に目を向けると、迷子になって泣いている子、目の前で大切な家族・友達を失ってしまった人達がたくさんいると思います。みんなが望む平和は「みんなが何かにおびえることが無く、笑っていること」などで、同じ人間なのに、なぜ争いが起きてしまうのかと、今も笑顔で過ごせない人がいることが、私はとても悔しいです。私は将来、人を笑顔にさせるある職に就きたいと思っています。1 人でも人が笑顔で居てくれると私は心の底から嬉しくなりますし、自分が笑顔でなくても他の人が笑ってくれると自分まで笑顔になれます。私は今回、笑顔の大切さを知りました。身近なことでも平和につながる努力をしていきます！（本原京香）

◯私が沖縄本島平和学習を通して学んだことの 1 つ目は「見て終わり」ではなく「考えて行動するまでが大切だ！」ということです。せっかく平和を学びに行ったのに自分たちで争いの種をまき、水をまいてしまい、争いの花を咲かせてしまったら学びに行った意味がないからです。2 つ目は当たり前ですが「一人ひとりの命が尊い」ということです。今、ニュースで「1 万人・・・2 万人の人々が戦闘行為によって失われた」という言葉が流れてきます。一人ひとりの命が大切と言いながら、その何倍・何百倍・何万倍の人々が亡くなっていることが「普通」になっています。1 日も早く戦争を終わらせて、戦争のニュースから平和のニュースになることを心の奥から願っています。（刈屋文里）

◯私は平和学習で大切なことを学びました。それは戦争に無関心にならないということです。ガイドの先生の言葉を聞いて、まず、戦争のことを知らなければ、平和を実現できないと思いました。私は戦争を体験したことがないので、最初はどういうことなのかあまり想像できませんでした。しかし、海星小学校での 6 年間の学校生活で学んだことや平和学習を通して、戦争がどれだけ悲惨か、どれだけ苦しいのかをだいたい理解できるようになってきました。わたしはこれまで「戦争なんてなければいいのに、なんで始めるの？」と、少し人任せなことを思っていましたが、これからはもっと学んで、もっといろんなことを知って、平和への道を探していきたいと思いました。（辻 雅）

平和学習ガイドをお引き受けくださっている講師のうち、お一方は、26 年前にシスターアグネス宮城様からご紹介いただいた方で、スタートの年から毎年学びの多い案内をしてくださっています。沖縄本島平和学習の初回経験者の 33 期生達はすでに父となり母となっていますが、その家庭でも平和の種がまかれ、健やかに育っていることを願いつつ、これからも種をまき続けていきたいと思う今日この頃です。

（海星小学校 12 代校長　崎山麻希）





Charity Begins at Home : Sharing God's Love with Those in Need

We sincerely thank you for your continued understanding, generosity, and support of the ministries of Caritas Okinawa.

This year marks the fifth year since we began our food assistance ministry at the Catholic store that caters to individuals that in need of food assistance. Once every month, we provide food assistance to approximately 20 individuals experiencing financial hardship, as well as food donations to the non- profit organization Yuimaaru no Kai that distribute food support at Makishi park.

We would like to share a few messages of gratitude from those who have received this support:

"I thank our Lord Jesus Christ and everyone in the Church. May God richly bless you all." (Male, 40s)
"Thank you very much for your continued support. It has been a tremendous help." (Male, 30s)
"The food assistance has been a great help to me. I can truly feel the warmth and kindness behind every meal. Thank you very much." (Female, 40s)
"Thank you so much. Your support gives me strength and encouragement to keep going." (Male, 30s)

As the cost of living continues to rise, this ministry remains possible only because of your generous support. On behalf of all the staff and volunteers of Caritas Okinawa, we extend our heartfelt gratitude. Once again, we would like to continue our projects through your continued support on all of Caritas Okinawa activities.

To support these ongoing outreach programs, we are pleased to invite you to the 2nd Caritas Okinawa Charity Concert.

This year's concert is centered on the theme "Peace" and commemorates the 800th anniversary of the passing of St. Francis of Assisi, whose life continues to inspire us to be instruments of God's peace and love. We hope this concert will be an opportunity for us to come together in prayer and solidarity, to renew our commitment to peace, and to extend God's love and compassion to our brothers and sisters in need.

Rika Sakiyama – Caritas Okinawa Staff

愛は身近なところから ― 困難の中にある人々へ神の愛を分かち合う ―

日頃より、カリタス沖縄の活動に深いご理解と温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

おかげさまで、カリタス沖縄の食料支援活動は今年で5年目を迎えました。毎月1回、カトリック文化センターにおいて、経済的に困難な状況にある約20名の方々へ食料支援を行っています。また、牧志公園で食料配布を行っているNPO法人「ゆいまーるの会」にも食料を提供し、地域の支援活動に協力しています。

今回は、この支援を受けられた方々から寄せられた感謝のメッセージをいくつかご紹介いたします。

「主イエス・キリスト様と教会の皆さんに感謝しています。皆さんの上に神様の豊かな祝福がありますように。」（40代・男性）
「いつもありがとうございます。本当に助かっています。」（30代・男性）
「食料支援のおかげで生活が支えられています。届けていただく食べ物には、温かい思いやりが感じられます。ありがとうございます。」（40代・女性）
「ありがとうございます。皆さんの支えのおかげで、元気をいただき、前向きに頑張ることができます。」（30代・男性）

物価の高騰が続く中、この活動は皆様からの温かいご支援によって支えられています。カリタス沖縄のスタッフ・ボランティア一同、心より感謝申し上げます。今後とも、皆様の変わらぬご支援を賜りながら、カリタス沖縄は、助けを必要としている方々に寄り添い、希望と支えを届ける活動を続けてまいります。

この活動を支えていただくため、第2回カリタス沖縄チャリティーコンサートを開催いたします。

今年のコンサートは、「平和」をテーマに掲げ、アッシジの聖フランシスコ帰天800周年を記念して開催いたします。神の平和と愛の道具となるよう生涯をささげた聖フランシスコの精神に学び、このコンサートが、平和への祈りと希望をともにし、助けを必要としている兄弟姉妹へ神の愛といつくしみを分かち合う機会となることを願っています。

皆様お誘い合わせのうえ、ぜひご来場くださいますよう、心よりお待ち申し上げております。

崎山利香　カリタス沖縄スタッフ一同



2026年7月拡大司祭・助祭会議報告

開催日時：2026年7月7日（火）10:00～12:00　於・安里教区センター

1. 報告及び連絡事項

①司教、司祭の不在予定

ウェイン司教（7/6）いのち・平和・人権委員会（東京）

マイケル神父（6/30～7/31）休暇（ベトナム）

ナビーン神父（7/15～8/17）休暇（インド）

マキシム神父（8/1～9/1）休暇（インド）

②6月23日「慰霊の日」平和巡礼について

・旧偕生園建物内のトイレが施設の事情により使用できなくなったため、来年度は事前に休憩場所及びトイレの確保について検討する。

・県内外から多くの参加があり、平和への祈りを共にする有意義な巡礼となった。

・今年は時間配分に余裕を持って実施し、子どもたちや学校関係者も落ち着いて参加でき、熱中症等の体調不良者もほとんど見られなかった。来年度からは暑さへの安全対策としてテント設営等について関係機関と協議していく。

・司教から大切な教区行事への協力に感謝が伝えられ、他教区や聖公会関係者など初めて参加した方々からも好評を得たことから、取り組みへの評価や関心の高まりを感じ、継続することの重要性を再確認した。

③カリタス沖縄が10月25日に安里教会でチャリティーコンサートが開催する予定なので、各小教区へポスター掲示等の協力依頼が行われた。

④日本カトリック司教協議会の組織再編に伴い、那覇教区における「いのち・平和・人権委員会」「多文化共生司牧部門」「船員の司牧部門」等の担当者が決定され、全国との連絡に対応していく。

⑤教区名義車両の任意保険更新のため、車検証又は車検証記載事項証明書の提出依頼。

2. 審議事項

①サマーキャンプについて

・参加資格、参加費、申込締切、会場清掃、薪の準備、送金方法等の確認、各小教区よりの参加者名簿早期提出の依頼がなされた。

・聖フランシスコをテーマとしたプログラム、平和学習、環境保全活動及びグループ活動を予定。司祭の参加が奨励されミサや子どもたちとの交流への協力依頼があった。

②2027年韓国・ソウルで開催予定のワールドユースデイについて

教区より約10名を派遣する方向で準備。費用については教区が支援するよう検討する。教区派遣参加者については各主任司祭の推薦が基本。日頃から教会生活及び青年活動に積極的に参加している18~30歳までの青年を優先し、帰国後は各小教区及び教区において体験報告を行うことが参加条件である。

③三教区合同黙想会（10月開催予定）について

宿泊・食事等は事務局担当、進行、受付等は司祭団が協力して担当。プログラムについては担当者を中心に引き続き検討する。

④司教予定について

7/19・26名護教会主日ミサ、8/2・9サマーキャンプのミサ、8/16首里教会公式訪問、8/23与那原教会公式訪問、8/30石垣教会公式訪問

⑤その他

・司教より司教会議の報告（「教会の祈り」、入信式文の改訂作業等が進められている等）

・8月15日開催の「諸宗教者平和の集い」への参加呼びかけ。

・MSP（フィリピン宣教会）の人事異動について

ロドニー新地区長の着任に伴い、ウェイン司教が7月25日付でロドニー神父を読谷教会の主任司祭、リカルド神父を具志川教会の主任司祭にそれぞれ任命する異動の報告。

2026年7月　日　承認：ウェイン・フランシス・バーント司教　　記録：新田 選

「令和8年熊本地震」で被災された皆様へ

私たちが8月の「平和旬間」や「聖母の被昇天」の祭日を迎え、命と平和について黙想しようとしていた矢先の7月28日、熊本県を中心に最大震度7の「令和8年熊本地震」発生のニュースが飛び込んできました。

突如として平穏な日常を奪われ、厳しい暑さの中で不安な避難生活を余儀なくされている被災地の皆様、そして福岡教区の教会の兄弟姉妹に、心よりお見舞いを申し上げます。また、亡くなられた方々の永遠の安息をお祈りいたします。

カトリック那覇教区
ウェイン・バーント司教
司祭
教区民一同

第34回 祈りと平和の集い

沖縄から世界へひろげよう平和の祈り

日時：8月15日（土）
午前11時～12時30分
会場：沖縄平和祈念堂

平和を願う心を一つにし、戦争のない世界の実現を祈りましょう。

黙想ノート

心の移ろいを鉛筆でスケッチしてみる、そこから絵の具で色付けしてゆく、或いはその逆で最初にある色彩から輪郭を抜き出してゆく場合もあるかもしれない。今日のみことば、司祭の講話、皆さんとの分かち合いの中で私は何を感じとることができただろうか、聖書を読むことの大切さ、その感じ取り、自分を見つめ直すことができたのか、共同体で自分に課せられた役目とは、主は私をどこへ導かれようとされるのか、様々な思いが交錯する。

朝、目覚めた時から始まり、教会への道程、講話、黙想、分かち合い、ミサとその一日の流れのなかで閉じこもりがちな自己が以前よりも徐々に開いてくる。それは小さなことかもしれませんが、少しでも前へと進む糧となります。ほんとに、担当司祭、シスター、ファシリテーター、分かち合いに参加される皆さんには感謝しかありません。黙想会をどのように構築してゆくのか、シスター方の指導を賜りながら、また参加されてる方の声も聞きつつ、日々模索しながら形作っています。谷司教は著書「都に上がる歌」の中で以下のように述べておられます。

～ 個人の意思や努力では回復することのできない罪の赦し、贖いは主のもとにしかない。また、個人の意思や努力で深い淵の底から抜け出すこともできない、救いは主にしかない～

那覇教区一日黙想会、今年度はまだ継続中です。9月、10月、12月、年明けは1月、2月、3月の各第二土曜日、聖クララ修道院にて。

祈りのうちに・・・与那原教会　佐藤 芳樹



葬祭の「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
http://w1.nirai.ne.jp/yasurai
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～

葬典社（そうてんしゃ）

＊創業30数余年・・・。
＊皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
＊ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

（実務担当）比嘉（ひが）　高茂（たかしげ）

24時間受付



☎098-853-1059（てんごく）